

第4回滋賀県史編さん会議 議事概要（案）

日 時 令和8年6月3日（水）午後2時00分～3時30分

場 所 滋賀県大津合同庁舎7A会議室

出席者 伊藤委員（副議長・県史編集委員長）、越後委員、岸本委員（議長）、久保田委員、坂根委員（県史副編集委員長）、寺嶋委員、東郷委員、藤吉委員、船越委員、松田委員、松野委員、松本委員、三宅委員 ※以上、50音順
事務局（公文書館職員）5名

配布資料 別添のとおり

会議概要 以下のとおり

1 開会

挨拶（岸本議長）

2 議題

資料に基づき事務局から説明後、各委員から以下の意見が出された。

（1）令和7年度編さん事業の実績について

○伊藤委員（県史編集委員長）

- ・滋賀県史では、わかりやすく水準の高いものを作るため、執筆委員の原稿を丁寧に査読（修正指示）している。基本的な誤りはもちろん、大きな流れが描けているかを重視しており、学校の先生が授業でも使えるものにしていきたいと考えている。

○谷口委員

- ・資料編2の仮目次（資料1-2）では、第4部第3章が「地域社会の変容と自助の強調」となっているが、過度に自助を強調する見方をうながすことにつながらないか懸念がある。
- （伊藤委員）この案をつくった部会長の意図は、自助の強調を奨励するというものではなく、自助が強調された時代があったということを示すものであると聞いている。あくまで批判的な意味で用いているが、部会長にそのような意見があったことは伝えておきたい。

○松田委員

- ・この仮目次では、「新しい社会運動」（第3部第3章）や「新しい経済」（第4部第2章）という学問的な用語が用いられているが、「新しい」という言葉の意味が伝わりにくいように感じる。「市民参加の社会運動」や「持続可能な経済」などの平たい言葉の方がよいのではないか。
- （伊藤委員）こちらの意見も部会長に伝えておきたい。

○寺嶋委員

- ・仮目次で「新しい」という言葉が用いられているが、いずれは古くなる可能性がある。将来のこ

とを考えて、カットしてもよいのではないか。

→（伊藤委員）この「新しい」という言葉は、いま我々が生きている現在から見て、新しい時代になったということを強調するために付けたもの。100年が経てば多少は古くなるかもしれないが、いまの時代にどういう県史がふさわしいかを考えて付けた題なので、お許しいただきたい。

(2) これまでの会議で頂戴した意見への対応状況について

○久保田委員

- ・子ども向けの誕生日新聞をつくるという企画は、とてもすてきな取り組み。子どもたちにとって、自分の歴史というべき誕生日を振り返るというのは、歴史学習全般に対する関心を高めるという意味で重要であるし、全国の公文書館の実践事例でも少ないように思う。昨年度の意見を踏まえて取り組んでいただいた学校資料の調査も大変ありがたい。

(3) 令和8年度刊行予定の「新修 滋賀県史 資料編1」の活用について

○久保田委員

- ・特に『滋賀県史授業活用マニュアル』（資料3-1）というものに興味をもったが、以下の3点を大切にしてもらえるとありがたい。
 - 1つ目は大きな流れのなかで地域史をとらえるという視点。子どもたちは教科書で全国的な通史を学んでおり、滋賀県の事例も、全国の流れとつなげて考えてもらうことが大事だと思う。
 - 2つ目は地域バランス。大津だけではなく、湖北・湖東・湖西・湖南それぞれの事例を取り上げていただきたい。
 - 3つ目としては人物にスポットをあてていただきたい。小学生に歴史を説明するときに、出来事よりこんな人がいたと説明した方が伝わりやすい。人の生き方というものが反映されていると、学ぶモチベーションが高まりやすいと思う。

○船越委員

- ・最近、高校ではアントレプレナーシップ（起業家精神：新たな価値を創出し、リスクを恐れずに変化や課題に挑戦する能力と姿勢）教育がかなり実施されている。高校生たちは、自ら開発した商品やサービス、旅行については詳しく調べていたようだが、現場のお客さんからは、滋賀の歴史についても尋ねられることがあったよう。令和10年度に実施予定の県史を用いた公開授業では、次の子どもたちが地域の歴史を知るよいきっかけになると思われる。
- ・また、来年実施予定の企画展示の時期は、JRさんらが企画する「滋賀デスティネーションキャンペーン」（10～12月）と重なるので、うまく関係付けて、この取り組みを広げていただきたい。

○三宅委員

- ・今後予定されている企画展示は、県内で巡回するとよいのではないか。また、文書だけでなく、当時の写真や絵図なども展示すると、全然伝わり方が違うように思う。展示に訪れる人たちのいろんな想像力とともに関心も広がるのではないか。

○藤吉委員

- ・このたび刊行された『滋賀県史研究』第2号のなかで、坂根先生が「三方よし」という言葉の用いられ方について、実証的に明らかにされたことに敬服の念をもった。以前伊藤先生が「歴史というのは実証主義である」と強調されていたが、まさにその通りのお仕事だと感じる。

○松野委員

- ・各市町の図書館でも、展示や講演会を実施していただければありがたい。難しいかもしれないが、視覚に障害のある方や高齢者のために、テキストデータの提供があるとよい。図書館の方でも、公文書館のデジタルアーカイブをもっと利用できるように、取り組みを進めていきたい。

○松本委員

- ・ふるさと滋賀への愛着と誇りを育むために、展示や講演会を実施する際には、図書館や公共施設だけでなく、商業施設なども視野に入れてご検討いただきたい。
- ・私どもが放送している「ジャパネットたかたのテレビショッピング」では、視聴者に考えさせる、選ばせるという点をいつも意識していると聞いている。展示のなかでも、クイズ形式のような問いかけをすれば、より効果的ではないか。

3 閉会